

(規則) 様式第7 (第7条関係)

# 政務活動費成果報告書

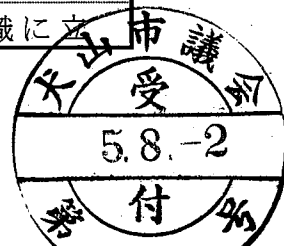
5年8月2日

犬山市議会議長 柴田 浩行 様

議員名 小川 隆広

下記のとお<sup>り</sup>、<sup>研修会</sup>第65回 自治体学校in岡山の成果を報告いたします。

(1) 年月日	令和5年7月22日(土)～令和5年7月24日(月) (2泊3日) ※研修会7/23・24参加、7/22は前泊
(2) 場所	第65回 自治体学校in岡山 (岡山市内)
(3) 形態	会派 (日本共産党犬山市議団)
(4) 内容	7月23日(日) 分科会 「新型コロナ後の公共交通のあり方」を表題に人、都市、社会に求められる公共交通のあり方について、主に岡山をはじめ関西地方の識者の講演を拝聴しました。地域公共交通における上下分離のあり方、岡山県瀬戸内市の実際の取り組み例、NPO法人公共の交通ラクダでは、Maasの在り方について、それぞれ講演を賜りました。
	7月24日(月) 全体会 特別講演として、暮らしから考える自治体行政のデジタル化、地方自治体が直面する課題への挑戦について識者より講演を賜りました。
(5) 成果・提言	分科会では、これまでの公共交通分野での研究を再確認、補強することができた。本来の交通弱者の目線に立った公共交通のあり方について、移動の楽しさの欠落を実感することができた。また、欧州との比較でMaas実現への課題を再認識することができた。犬山市においても交通弱者のための公共交通を検討する際は「出かけられる」ではなく「出かけたくなる」施策としていくべきと考える。また、交通弱者にとって地域の公共交通は人とのつながり=コミュニケーションツールとの認識に立



(5) 成果・提言	ち、本市においても拡充していくことを期待する。
	犬山市でMaas実現に向けて取り組む際にはDXを取り
	入れるだけでは意味がない。まずは交通の利便性向上を
	徹底することを期待する。
	全体会では、行政手続きのオンライン化の原理原則、
	地域由来の再生可能エネルギーから地域で「回る経済」
	について知識を深めることができた。犬山市においても
	行政手続きのオンライン化について①個々の手続き・サ
	ービスが一貫しているか、②一度提出した情報を、二度
	提出することを不要としているか、③民間サービスを含
め複数の手続き・サービスがどこからでも一カ所で実現	
するか、点検と検証するべきと考える。また犬山市にお	
いても地域で「回る経済」を構築するため、再生可能エ	
ネルギーの更なる研究と、それらを含めた地産地消につ	
いて先進自治体を参考に拡充することを期待する。	